

《研究ご協力のお願ひ》

[研究タイトル] 顎変形症患者の術前術後における気道形態の三次元的変化について

[研究代表者] 東京歯科大学千葉病院・口腔外科学講座 病院教授 高木多加志

[研究分担者・担当者] 助教 右田雅士
レジデント 大竹祐輔

[研究の概要]

顎変形症の治療において、欧米では日本と異なり上顎（上あご）と下顎（下あご）の両方が後退している患者が多く、呼吸障害を伴う場合には睡眠時無呼吸症候群（OSAS）の診断が下されることが多く、その治療のために顎矯正手術による上下顎の前方移動術やオトガイ形成術が行われることも多い。

日本においても、睡眠時無呼吸症候群と顎顔面骨格の異常との関連性については睡眠学会や睡眠歯科学会といった専門学会において多くの報告が行われている。しかし、日本人に多い骨格性下顎前突症（下顎が出ている）に対して、顎矯正手術を施行することにより将来的な睡眠時無呼吸症候群を惹起させる可能性や呼吸障害のリスクを上昇させる可能性もあることについては不明な点が多い。

そこで、顎変形症の手術に際して使用した頭部 X 線規格写真分析や X 線 CT による三次元画像を用いて、骨格の大きさ、手術による顎骨の移動方向、鼻腔形態、咽頭気道形態などについての変化について検討を行い、顎矯正手術と呼吸機能の変化について検討する。なお、本研究は倫理委員会の承認をえて行っております。

[研究方法]

（対象）東京歯科大学千葉病院口腔外科にて顎矯正手術を行った患者様

（資料）治療の際に撮影した頭部 X 線規格写真、および X 線 CT

（方法）X 線写真の分析

[試料提供者またはその家族等（以下「研究対象者」という）への人権の擁護]

- 1) 治療にあたり必要があつて撮影済みの X 線画像を使用するため、新たに X 線撮影は行いません。
- 2) X 線画像の計測結果および骨格の画像のみを学会や論文で発表するため、これにより個人が特定されることはありません。
- 3) 研究対象者の人権擁護に配慮するため、氏名などの個人情報については公表しません。
- 4) 本研究によって生じる研究対象者への不利益と危険性はありません。
- 5) 研究データ等（基本情報は性別・年齢のみ）は、解析中は個人が特定できないよう配慮します。
- 6) 個人情報の開示は、東京歯科大学千葉病院の個人情報開示規定に法り対応します。

本研究についてのお問い合わせは、[研究代表者] 高木多加志、[研究分担者] 右田雅士、大竹祐輔までお願い致します。

東京歯科大学千葉病院口腔外科

〒261-8502 千葉県千葉市美浜区真砂 1-2-2 TEL:043-270-3901